

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

No.1124 2013年11月号

「四国の森づくりin徳島2013」開催

10月12日、13日の両日、徳島県那賀町において、「四国の森づくりin2013」を開催しました。 【詳細は2頁】



鶴見四国森づくり実行委員長開会の挨拶



基調講演：「地域資源は宝の山」



分科会：「木材市場見学」



雲ひとつない晴天となつた一〇月二二日、一三日の両日、徳島県那賀町において、四国の森づくり実行委員会、四国の森づくりin徳島実行委員会主催による「四国の森づくりin徳島2013」が「山村社会のにぎわい」と「多様な森林の形成」をめざして『をテーマに開催されました。



地元青年団による人形浄瑠璃

このイベントは、平成一六年度に四国四県と四国森林管理局が行った「四国の森づくりに関する共同宣言」に基づき実施されており、今年で一〇回目の開催となります。

初日は、鎌瀬農村舞台での地元の青年団による人形浄瑠璃で幕が開けました。

その後、式典会場である



四国山の日賞受賞者

相生ふるさと交流館のホールに場所を移し、「四国山の日賞」の表彰を行いました。受賞団体は次のとおりです。

- 森林整備部門
- ・高知県緑サポーター会 (高知県)
- 木材利用部門
- ・株式会社ウッドピア (徳島県)
- 森林環境教育部門

・川田中緑の少年隊 (徳島県)

・土庄町大部財産区 (香川県)

・愛治緑の少年団 (愛媛県)

・喜多地区林業研究グループ (愛媛県)

・プ連絡協議会 (愛媛県)

・新木局長による受賞団体への表彰状授与の後、受賞

団体を代表して、三団体が

日頃の取組について報告を行いました。

行いました。



分科会の様子 (シカ車座)

続いて、「地域資源は宝

の山」と題して、徳島県上

勝町で日本料理を彩る季節

の葉や花、山菜などの「つ

まもの」を販売する「葉っ

ぱビジネス」を考案した横

石知二氏による基調講演が

行われ、タブレット端末を

高齢者が上手に活用する様

子などユーモアを交えた話

に耳を傾けました。

その後、地元那賀町の森

林管理受託センター室長で

ある山本賢明氏による「那

賀町の森林・林業の現状と

今後の方策」について講演

がありました。

二日目は、「搬出間伐・

木材市場現場見学」、「紙漉

き体験」、「森の健康診断」、

「山のシカ食害を考える」

の四分科会に分かれ現場の

視察と意見交換を行いました。

二日間とも天候に恵まれ、夜の懇親会を含め、四国

県の森づくりについて、より交流を深め、連携をして

いこうと確認して、有意義な二日間が終了しました。



一月七日、高知県馬路

村において、昭和三八年に

廃線となった魚梁瀬森林鉄

道の遺産と魚梁瀬千本山

国有林を訪ねるツアーを公募

による二四名の参加を得て

開催しました。当日は、ス

タッフとして、「馬路村公認

むらの案内人クラブ」に協

力をさせていただきました。

参加者は、バスの中で

「中芸地区森林鉄道遺産を

保存・活用する会」が作成

したビデオを見て、森林鉄

道の歴史について学びなが

ら、最初の目的地に向かい

ました。

安田川沿いの森林鉄道遺

産の明神口橋とオオムカエ

隧道では、バスから降りて

先達の施工技術などについ

て、むらの案内人の清岡さ

んより詳しい説明を受け、

建設に携わった人々の苦勞

や森林鉄道が走っていた時代の村の繁栄が偲ばれました。また、釜ヶ谷棧道や魚梁瀬ダム展望台でも、説明を聞きながら見学しました。

それぞれの目的地に向かう車中でも、案内人の清岡さんから馬路村の今昔や森林・林業の歴史などについて説明があり、そのユニー

クな話しぶりに笑いが絶えませんでした。

魚梁瀬の丸山公園では復元された森林鉄道に希望者が体験乗車し、弁当を食べ

た後、最後の目的地である千本山ヤナセスギ林木遺産資源保存林を目指しまし

た。千本山では、登山口にある森の巨人たち百選に選ばれた「千本山橋の大杉」を見学した後、標高九〇〇mにある展望台を目指して出発しました。天気にも恵まれて参加者全員が展望台まで無事登ることができ、樹齢二〇〇年



千本山橋の大杉 (森の巨人たち100選)

樹齢二〇〇年

三〇〇年のヤナセスギ美林とのふれあいに、皆さんご満足いただけたようでした。

参加者からは、「巨木を見てパワーをもらいました。」「森林を守ることの大切さに気づきました。」などの感想をいただきました。有意義で楽しい一日となりました。



森林鉄道体験乗車



台風の影響により一週間延期となった「伊予之二名島古事の森」の森づくり活動を一月二日に愛媛県久万高原町のサル谷山国有林（石鎚山系の中腹）で実施しました。



倒れた木を起こす作業の様子

この活動は、松山城や道

後温泉本館など木の文化を象徴する伝統的な木造建造物の修復材確保を目的に、

伊予之二名島古事の森育成協議会との協定に基づき、

平成一九年度から取り組んでいるものです。七回目となつた今年は、一般公募に

よる参加者一二名を含む総勢一五名の参加となりました。

まず、育成協議会の会長である愛媛大学江崎名誉教授から、「伝統的な木造建築物の定期的な修復



森づくり活動に参加された皆様

に必要な資材を安定的に供給するための取組であり、本日行う森林整備は私たちの孫やひ孫に役立つ有意義な作業です。」との挨拶があり、その後作業に取りかかりました。

今回は、主に雑草木の刈り払いと、植生保護管（ヘキサチューブ）を外し

た後に倒れてしまった植栽木を起こす作業を行いました。

た後に倒れてしまった植栽木の驚きの声が聞かれました。

参加者の中には、第一回目の植樹に参加していた方がおり、「あれから数年経つが、植栽木より雑草木がこれほど大きくなるとは知らなかった。」と

倒木起こしを行うなど、愛媛森林管理署等と連携しながら、森林整備に取り組んでいくこととして



一〇月二日から三日にかけて鹿児島県の准フォレスト一行九名が来高し、四万十署管内の新道山国有林及び嶺北署管内の「高知おおとよ製材（株）」を視察しました。

さらに、一〇月二日の夕方には、当局や高知県の准フォレスト等を交え、鹿児島県におけるフォレスト育成活動の取組、コンテナ苗を活用した密着造林の手法や森林作業

当局・高知県・鹿児島県
准フォレスト―等意見交換会



道の作設など最近の林業情報について意見交換を行いました。日程の都合で多くの時間を取れませんでした。活発な意見交換ができ、有意義な時間になりました。

また、四万十署管内の架線及び路網を使った搬出間伐箇所では、あいに

く架線は設備中でしたが、説明にあたった四万十署の職員に索張方法や壊れにくい森林作業道の作設等多くの質問が出され、准フォレスト―としての意識の高さが感じられました。

今後とも交流等を通じて技術の研鑽に努めていきたいと思えます。



一〇月一四日、恒例となりました「秋期緑の街頭募金」が、「緑の募金でふせごう地球温暖化」の

スローガンのもと、公益社団法人高知県森と緑の会主催により、高知市の中央公園及び帯屋町筋で



間伐作業、森林作業道作設等の現地視察

行われました。

出発式の後、新木局長を初め約五〇名の街頭募金協力者が参加し、アーケードを歩き交う人々に大きな声で募金の協力を呼びかけると共に、森林の大切さや、この募金が森林づくりに活かされていることなどを訴えました。

当日は日差しが強く、汗ばむような陽気でしたが、休日ということもあり、子どもから年配の方まで、募金への呼びかけに応えていただき、たくさんの方の善意が寄せられました。

この「緑の募金」は高知県内の森づくり活動などに役立てられるほか、国際緑化事業など様々な

事業に活用されることになっていきます。



緑の募金出発式
(右から二番目新木局長)



子ども達も活躍